

高校地理プリント（過去問類似）
地理総合（2025年～の共通テスト本試験）
No.5

名前

得点

/9

問1 南アメリカ大陸の西岸沖に位置し、海洋プレートであるナスカプレートが大陸プレートである南アメリカプレートの下に沈み込むことで形成されている、非常に深く細長い海底の凹地を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. アリュースシャン海溝 2. トンガ海溝 3. マリアナ海溝 4. ペルー・チリ海溝

問2 日本の農産物輸出において、台湾や香港が主要な輸出先であり、近年はタイやベトナムなどの東南アジア諸国への輸出量も増加している果実がある。この果実は、北半球に位置する日本での収穫期（秋）を反映し、輸出先における日本産の輸入時期が11月から3月頃の冬期に集中するという季節的特徴を持つ。この果実の名称を答えよ。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ミカン 2. ブドウ 3. イチゴ 4. リンゴ

問3 日本の地方都市において、1980年代以降、自家用車の普及に伴って郊外への道路網整備が進み、人口集中地区の面積が拡大した一方で、地区内の人口密度が低下する現象が見られた。このような、自動車の普及が都市構造や人々の生活様式に大きな変化をもたらした現象を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ジェントリフィケーション 2. セグリゲーション 3. サバーバニゼーション 4. モータリゼーション

問4 1970年から2020年にかけての人口動態と農業生産の変化について述べた、以下の説明に該当する地域（大州）として最も適当なものを答えよ。「この地域では、同期間において人口密度が1平方キロメートルあたり約11人から約24人へと緩やかに増加した。また、農業技術の向上や耕地の拡大などに伴い、1人当たりの穀物生産量も約0.28トンから約0.58トンへと2倍以上に増加している。」（2026年 全国公立入試 類似）

1. オセアニア 2. 北アメリカ 3. ヨーロッパ 4. 南アメリカ

問5 ペルシャ湾岸の産油国では、豊富なオイルマネーを背景とした建設業やサービス業の急速な発展に伴い、労働力不足を補うために国外から多くの出稼ぎ労働者を受け入れている。特に、自国籍人口の割合が1割程度と極めて低く、人口の大部分を南アジアなどからの外国人労働者が占めることで知られる、ドバイやアブダビなどの首長国から構成される連邦国家はどこか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. クウェート 2. サウジアラビア 3. カタール 4. アラブ首長国連邦

問6 アラビア半島の沿岸諸国では、年間降水量が極めて少なく、恒常的な河川も存在しない。この地域において、豊富な石油や天然ガスなどのエネルギー資源を背景に、大規模なプラントを建設して生活用水や工業用水を確保しているシステムや技術を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 海水淡水化 2. 地下水灌漑 3. 点滴灌漑法 4. 排水再利用

問7 日本の合成繊維産業は、高度経済成長期以降、原料の安定的かつ大量な供給を可能にする大規模な工業施設の整備に伴って大きく発展した。原油の精製からプラスチックや合成繊維の原料生産までを一貫して行う、臨海部などに形成された一連の工場群を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 石油精製コンビナート 2. 化学工業コンビナート 3. 石油化学コンビナート 4. 臨海工業コンビナート

問8 2010年代において、急速な経済成長に伴う電力需要の急増に対応するため、火力、水力、原子力、および再生可能エネルギーのすべての発電方式において、発電量を大幅に増加させた国はどこか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 朝鮮 2. 韓国 3. 中国 4. 日本

問9 アメリカ合衆国の主要都市圏における職業構成を比較したとき、世界的な金融・ビジネスの中心地として管理的・専門的職業の割合が極めて高い都市圏と、かつて製造業が盛んで生産・輸送職の割合が比較的高い都市圏がある。後者の特徴を持つ、五大湖沿岸に位置する代表的な都市圏の中心都市はどこか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ラスベガス 2. アトランタ 3. デトロイト 4. メンフィス

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 ペルー・チリ海溝	南アメリカ大陸の太平洋岸（西岸）では、ナスカプレートが南アメリカプレートの下に沈み込む「狭まる境界」が形成されている。この沈み込み帯に沿って、非常に深い谷状の地形であるペルー・チリ海溝が発達している。この境界付近では、アンデス山脈の形成や火山活動、巨大地震の発生が活発である。
問2	答え 4 リンゴ	日本産のリンゴは、高品質なブランド農産物としてアジア地域で高い人気を誇っています。日本は北半球に位置するため、リンゴの収穫期は秋であり、輸出先である台湾などでの輸入時期は11月から3月頃の冬期に集中します。近年は台湾や香港だけでなく、ベトナムやタイなどの東南アジア諸国への輸出も拡大しています。
問3	答え 4 モータリゼーション	地方都市では、自家用車の普及（モータリゼーション）が進んだことで、郊外の主要道路沿いに商業施設や住宅地が拡大した。これにより、人口集中地区（DID）の面積は拡大したものの、人口の伸びが追いつかなかったため、地区内の人口密度は低下し、都市の低密度化が進行した。
問4	答え 4 南アメリカ	1970年から2020年にかけて、人口密度が緩やかに増加し、かつ1人当たりの穀物生産量が大きく増加した特徴を持つのは南アメリカである。南アメリカでは、ブラジルのセラード開発に代表される大規模な耕地拡大や農業技術の近代化が進み、大豆やトウモロコシなどの穀物生産量が急増した。一方、人口増加はアフリカほど急激ではなく、人口密度は比較的低い水準で緩やかに推移している。これに対し、アフリカは人口急増により人口密度が大きく上昇しているが1人当たり穀物生産量は低迷しており、北アメリカやヨーロッパはすでに高い穀物生産水準や異なる人口動態を示しているため、提示されたデータと合致する。
問5	答え 4 アラブ首長国連邦	ペルシャ湾岸の産油国では、急速なインフラ整備や経済成長に対して自国の人口規模が小さいため、労働力を外国人に強く依存している。なかでもドバイやアブダビを擁するアラブ首長国連邦（UAE）では、総人口に占める外国人（特に南アジアからの出稼ぎ労働者）の割合が約9割に達しており、人口ピラミッドにおいて生産年齢人口の男性が極端に多い歪な形状を示すことで知られる。
問6	答え 1 海水淡水化	アラビア半島などのペルシャ湾沿岸諸国では、水源となる河川や湖沼がほとんど存在しないため、海水を淡水に変換して利用している。このプロセスには多大なエネルギー（熱や電力）が必要となるが、同地域は産油国であり、豊富な化石燃料をエネルギー源として利用できるため、海水淡水化プラントの稼働が実用化されている。
問7	答え 3 石油化学コンビナート	化学繊維（特に合成繊維）は石油製品を原料とするため、高度経済成長期以降に臨海部を中心に整備された石油化学コンビナートに隣接、あるいはそこから原料供給を受ける形で発展した。これにより、原料の調達から製品の製造までが効率化された。
問8	答え 3 中国	急激な経済成長を背景に電力需要が爆発的に増加したため、特定の発電方式に依存することなく、石炭を中心とする火力発電から、水力発電、沿岸部を中心とする原子力発電、さらには太陽光や風力などの再生可能エネルギーに至るまで、あらゆる発電方式の整備を急速に進めた。
問9	答え 3 デトロイト	五大湖沿岸に位置するデトロイトは、かつて自動車工業を中心に急速な発展を遂げた都市である。そのため、金融やビジネスの機能が集積し管理的・専門的職業の割合が高いニューヨークなどの都市圏と比較して、製造業に関わる生産・輸送職の就業者割合が相対的に高いという特徴を持つ。